

「優秀賞」((公財) 都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞)

- 活動名 : 栗山みどりの保全事業 (たろやまの郷)
- 活動範囲 : 千葉県四街道市 (たろやまの郷)
- 応募者 : 四街道市、栗山みどりの保全事業実行委員会

■活動の概要 :

四街道市は、首都圏の住宅都市であると同時に、住宅地に隣接した地域にはいまだ豊かな林野が残されている。しかし、土地所有者の高齢化や後継者不足により、里山の手入れが行き届かず、荒れたり休耕地になることも少なくない。

このような背景のなか「たろやまの郷」では、土地所有者のご厚意により土地を借り受け、市と栗山みどりの保全事業実行委員会の協働により、昭和30年代の里山風景の再生を目指した保全を行っている。また、近隣小学校の授業の一環として、年4回の自然観察会や、田植えや稲刈りの体験、収穫したお米による収穫祭を実施しており、自然のある景観形成の大切さを学ぶ機会となっている。

整備以前は立ち入ることも難しい荒れた状態であったが、整備後は、下草に埋もれていた植物が新たに芽吹き始め、無農薬での稲作を再開したことで、ホタル、トンボ、カエルなどの生き物が田に戻り、生物多様性が回復しつつある。

また、定年退職後の方々が多く参加する市民団体と小さな子どもを持つ親が集まる市民団体が活動を共にすることで、かつての里山の記憶を語り継ぐ貴重な場となり始めている。



ちで植えた稲を収穫。

■審査講評 :

“たろやまの郷”は首都圏から通勤圏内にある地域に残された面積約5.8haに及ぶ里山である。元々は土地保有者の高齢化や後継者不足などの理由から手入れが行き届かず荒れた状態であったという。

その里山を土地所有者の理解のもと、再生と保全に取り組んだのが今回の活動である。具体的な成果の中には、休耕田での稲作を再開する等の整備作業で、それまでの荒れた状態では見られなかった生物多様性が回復している。そして、現在では応募団体が伐採などで整備した散策路は、延長1,300m、耕作面積5,022㎡と昭和30年代の里山を再現しつつある。しかし、この活動の魅力はその団体の構成にある。四街道市内にある自然保護団体6団体がそれぞれ自分たちの得意分野を担当し、日々の活動を行っている点である。無理なく自分たちの得意分野を生かすことで、活動の持続が期待できる。また、ここでの行政のサポートも見逃せない。土地所有者、地元自治会、6つの組織からなる実行委員会の円滑な仲介や連絡を担ってきたのである。今回は実際に整備された里山の状態と実行委員会の組織構成、行政のサポート等総合的に判断した結果、優秀賞とした。(大道)